

国
(問題)
語

2012年度

〈2012 H24061119〉

注意事項

- 1 問題冊子は、試験開始の指示があるまで開かないこと。
- 2 問題は2～9ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
- 3 解答はすべて解答用紙の所定欄にHBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルでマークすること。
- 4 試験開始後、解答用紙の所定欄に氏名を記入すること。
- 5 マークははっきり記入すること。また、訂正する場合は、消しゴムで丁寧に、消し残さないようによく消すこと（砂消しゴムは使用しないこと）。

マークする時	● 良い ○ 悪い ○ 悪い
マークを消す時	○ 良い ○ 悪い ○ 悪い

- 6 いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出すること。
- 7 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

(一) 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

貨幣とは「支払い」というコミュニケーションを媒介するメディアであり、支払いというコミュニケーションで形成される部分システムが「経済」である。同様に、権力メディアが形成する部分システムが政治、真理メディアが形成するのが学問である。このように、全体社会がメディアの種類により部分システムへと分化すると考えるのが、ルーマンに特有な社会観である。

貨幣と言語は社会的・文化的進化の産物である「人工メディア」であるが、これら二つのメディアにはいくつかの点で同型性が見られる。まず、メディアと形式を区別しよう。「メディア」とは緩やかな結合により特徴づけられるものであるのに対し、「形式」はリジッドな構造や強い結びつきを作り出すものである。メディアは様々な形式をとりうるが、一つの形式を刻み込めるのは一つのメディアである。

言語メディアの場合、形式は「言表」であり、そこには表現対象、主体、状況等の多層的な構造が表現されている。

貨幣メディアの場合、形式は「支払い」であり、支払い対象、主体、支出計画等が表現されている。

また、貨幣と言語はともに時間・事象・社会の三次元における差異を克服する「一般化」という観点でも同型的である。貨幣の事象的一般化は貨幣の価値尺度機能が可能にするものであり、多様で、異質な「商品」に一次元的な「価格」を与えることにより、通約可能性や比較可能性を与える。貨幣での「商品」と「価格」に対応するのは、言語での「文章」と「意味」である。

貨幣の価値尺度機能ほどではないが、言語にも事象的一般化の機能がある。貨幣と言語の決定的な差異は、貨幣が価格表現により商品の質的な多様性や複雑性を一元的情報へと縮約する「一元的メディア」であるのに対して、いま述べた事象的一般化の機能があるとはいえず、言語は圧倒的に多様性と複雑性を保持した表現が可能である「多元的メディア」であるという点にある。

言い換えると、「支払い」という形式は、「言表」という形式に比べると、遥かに単純な構造しか内包しないということである。価値尺度としての貨幣は現実世界の複雑性を一元の価値へ縮約・還元して表現することができる。そして、支払いという形式が、「象徴的」一般化⁴として機能することで、市場における分業や分知、知識の発見や革新を促進し、多種多様な商品の販売を可能にする。

しかし、それと同時に、貨幣がすべてを一元的な価格で表現することで地域、組織、集団個人が持つ文化・価値・規範における固有性や質的多様性が失われるという「悪魔的」一般化⁵が生じてしまうことにもなる。特に、貨幣が価値増殖を唯一の目的として利用される資本として立ち現れ、近年のグローバルゼーションの中で、投資や投機が広く行われるだけでなく、機会費用や人的資本といった思考様式が蔓延する時には、この問題は深刻化してくるだろう。

このことが意味しているのは、人々の意識が次第に資本家に近づいていくことである。女性や母親が家事や育児を家族の外でカセ⁶ぐことのできる賃金所得という機会を失うことであるとますます認識するようになり、人々は各種の資格だけでなく、高等教育・学習をも将来の収益を増大するための人的資本への投資であると、徐々に考える傾向にある。価値や意識におけるそうした変化は家族・学校・大学といったコミュニティを完全に市場へと分解してしまうところまで加速化しつつある。

わたしたちが使う言葉は、深い理解や共感を生み出す一方、時に無用の誤解や亀裂を生む。だが、言語なきコミュニケーションは不可能である。貨幣もまた人間が経済を営むために必要不可欠な、しかし功罪両面を持つコミュニケーション・メディアである。

わたしたちはコミュニケーション・メディアとしての言語と貨幣を見る場合、言葉によるコミュニケーションを言葉⁷を媒介にしてメッセージの意味が伝達されると考えたり、同じく、貨幣によるコミュニケーションでも、貨幣を媒介にして商品の価値が転送されると考えがちである。しかし、この見方は正しくない。なぜなら、ここでは、言葉も貨幣もそれを媒介としない純粋なコミュニケーションや物々交換が理想的状态としてはありうると想定したうえで、それを達成することができないという困難を回避する手段として理解されているからである。

しかし、メッセージの意味は言葉なしにはそもそも存在しないし、また、商品の価値（価格）も貨幣なしには存在しない。メッセージも商品もそれ自身として独立には存在できないのである。逆に言えば、言葉は、ただちに読まれ聞かれなくとも文字や声として記録・保管されうるし、また貨幣もそれで直ちに商品を買わなくとも保管・蓄積されうる。

つまり、言語的コミュニケーションにおける「執筆・発話（表現）」と「読解・聴取（理解）」は、それぞれ独立の過程として時間的・場所的に分離されるし、同様に、貨幣交換における「売り」と「買い」も独立の過程として時間的・場所的に分離される。つまり、言語や貨幣は共に自存的なストックとして保管・蓄積されうる性質を持っているので、それらは言語的コミュニケーションを「表現」と「理解」、貨幣交換を「売り」と「買い」という、それぞれ二つの独立の過程へと切り離すのである。

そして、この切り離しによるストックの蓄積が緩衝（バッファ）となることで、個々の過程を相対的に独立のものとし、個人が自らの情報と判断に基づいて自律的・局所的に判断し行為することを可能にしているのである。そして、それは同時にシステム全体を極めてフレキシブルかつ頑強で創発的なものにする。

つまり、わたしたちは、言語的コミュニケーションや貨幣交換に予め純粋な双方向のコミュニケーションや物々交換を想定してはならず、「表現」と「理解」、「売り」と「買い」をそれぞれ独立した過程と考えなければならぬ。

では、両者の違いはどこにあるのであろうか。言語的コミュニケーションの場合、「理解」という二番目の過程に、そして貨幣交換の場合は商品の「売り」という最初の過程に実現の困難さが特に集約して現れる。この実現の困難さがズレて現れるというところこそ両者の違いがあるといつてよい。むしろ「表現」あるいは「買い」に困難がないわけではないが、先述したように、言語が数字により一元化されている貨幣に比べてより複雑な構造を持つており、また相手に一定の背景知識と理解力を要求するがゆえに、他者による「理解」により大きな困難が生じるのである。

他方、貨幣には、それで商品を買わずにストックとして蓄積するためのインセンティブが「利子」として与えられているため、「売り」に困難が集約されてしまう。コミュニケーションをいかに活性化するかを考えるためには、コミュニケーションの困難をもたらすこうした要因を考えなければならぬ。たとえば、貨幣に対する「利子」が取り除かれれば、「売り」の困難は（したがって同時に「買い」の困難も）イチジルクく軽減される可能性もある。

近年、若者の言語的コミュニケーション能力が低下しているといわれる。その原因が仮に若者の言語的な表現力と理解力、背景知識の全般的衰弱にあつたとしても、ではなぜそのようなことが起きるのかをさらに問わねばならないだろう。この点について、次のように考えることもできるのではないだろうか。

すなわち、グローバリゼーションによる市場の「外延的拡大」と「内包的深化」の結果として、貨幣交換という量化可能なコミュニケーションがあまりに肥大化しすぎたために、若者は「買い」の容易さに慣れてしまい、それと類似的な位置にある言語的コミュニケーションの「理解」の容易さを求めてしまうのではないか。あるいは、貨幣交換における「メニュー」の選択にのみ適応した結果、言語自体が貨幣のように単純な記号と化し、他者を相手とする言語的コミュニケーションの複雑さに堪えられないからではないか、と。

もしそうならば、言語的コミュニケーションの貧困化の一因は、貨幣交換の一元的な肥大化に求めなければならないし、この問題を解決するには、言語的コミュニケーションそのものだけではなく、貨幣的コミュニケーションのあり方をこそ変えなければならないということにもなる。

（西部忠「資本主義はどこへ向かうのか」による）

（注）ルーマン……ドイツの社会学者。インセンティブ……動機。

問一 傍線部 a・b にあたる漢字を含むものを、それぞれイ・ホの中から一つ選び、その解答欄にマークせよ。

傍線部 a	イ	か働	ロ	か物	ハ	か麗	ニ	休か	ホ	災か
傍線部 b	イ	ちよ蓄	ロ	ちよ突	ハ	ちよ立	ニ	ちよ名	ホ	端ちよ

問二 傍線部 1「貨幣メディアの場合、形式は「支払い」とあるが、なぜ「支払い」は「貨幣メディア」の「形式」と言えるのか。その理由として最も適切なものを、次のイ・ホの中から一つ選び、その解答欄にマークせよ。

イ「支払い」はコミュニケーションの形式を持つから。

ロ「支払い」は、「言表」と同じように複数の意味を持ち得るから。

ハ「支払い」は、現実売り手と買い手とを確実に結びつける形式だから。

ニグローバリズムの社会にあつて、「支払い」だけは形式として目に見えるものだから。

ホ「支払い」には様々な形式があるが、どれも何らかの形で実際に確認できるものだから。

問三 傍線部2「貨幣と言語はともに時間・事象・社会の三次元における差異を克服する「一般化」という観点でも同型的である」とあるが、この「一般化」とはどういうことか。その説明として最も適切なものを、次のイ・ホの中から一つ選び、その解答欄にマークせよ。

イ 世の中の事物にはその製作の過程でさまざまな違いがあるが、貨幣も言語もそれらを無視して価格や意味を与えること。

ロ 世の中の事物は、当然のことながら、もともと貨幣でも言語でもないが、それらを貨幣や言語に置き換えることで差異が解消されて一般化が行われること。

ハ たとえば、貨幣ならば机と椅子に値段をつけてそれらを同一の基準の元に置き、言語ならばAという机とBという机を同じ「机」という同一の言葉で表現すること。

ニ たとえば、貨幣ならばAという机とBという机に異なった値段をつけてそれらを比較できるようにし、言語ならば机と椅子に違った言葉を当てて意味を比較できるようにすること。

ホ たとえば、貨幣ならば異なった商品に同一基準の価格をつけることで交換という名の通約を可能にし、言語ならば異なった言語の意味を比較することで他言語間の翻訳を可能にすること。

問四 傍線部3「貨幣と言語の決定的な差異」とはどのようなものか。その説明として最も適切なものを、次のイ・ホの中から一つ選び、その解答欄にマークせよ。

イ 貨幣は質を重視するが、言語は表現を重視すること。

ロ 貨幣は情報を一元化するが、言語は情報を多元化すること。

ハ 貨幣は物事を単純化するが、言語は多くの意味を持ち得ること。

ニ 貨幣は表現として画一的だが、言語にはさまざまな種類があること。

ホ 貨幣は一元的に価値を与えるが、言語には意味の揺らぎがあること。

問五 傍線部4「象徴的一般化」、傍線部5「悪魔的一般化」とあるが、貨幣におけるこの二つの性質はどのようなものか。最も適切なものを、次のイ・ホの中からそれぞれ一つずつ選び、「象徴的一般化」については(1)の解答欄にマークし、「悪魔的一般化」については(2)の解答欄にマークせよ。

イ 商品にはそれぞれの伝統があるが、それをあえて相対化することで貨幣による交換や貨幣による投資も可能になること。

ロ 社会は様々な分野から成り立つが、それらが貨幣によって交換可能になるために孤立せず、社会全体を有機的に結びつけていること。

ハ 成り立ちの異なった商品が単一の基準で測られることで、競争によって様々な分野が進展し、様々な商品が販売されるようになること。

ニ 支払いという形式が商品の差異を平準化してしまうので、商品が持つ文化的背景などが無視され、貨幣自体の増殖が自己目的化しやすくなること。

ホ 支払いがあまりにも単純な構造しか持たないために、何もかもが貨幣というたった一つの価値で測られてしまい、もともとあった差異が無意味化すること。

問六 傍線部6「価値や意識におけるそうした変化は家族・学校・大学といったコミュニティを完全に市場へと分解してしまう」とあるが、どういうことか。その説明として最も適切なものを、次のイーホの中から一つ選び、その解答欄にマークせよ。

イ コミュニティと市場原理は本来相容れないが、人間が人的資本としてのみ見られるようになってしまったこと。
ロ 家族や学校や大学を投資の対象としてしか見なくなったために、貨幣が価値増殖の機能を強める結果となったこと。

ハ 人間関係の基本だった様々なコミュニティに市場原理が介入して人間関係がギスギスし、崩壊の兆しが見え始めたこと。

ニ 愛情や信頼や真理といった貨幣に換算できない価値によって成り立っていた家族や学校や大学が、貨幣経済に巻き込まれたこと。

ホ ある時代まで家事労働や学問は賃金の支払いの対象ではなかったが、それが労働として認識されて資本家の投資の対象になったこと。

問七 傍線部7「しかし」とあるが、この前後の文脈をまとめるとどのような論旨になるか。その説明として最も適切なものを、次のイーホの中から一つ選び、その解答欄にマークせよ。

イ 言語や貨幣は必要不可欠なコミュニケーション・メディアだが、決して純粋な媒介などではないということ。

ロ 言語や貨幣はないほうがいい媒介ではあるが、媒介に伴う意味や価格のズレを回避するための手段としては有効であること。

ハ 言語や貨幣は理想的なコミュニケーション・メディアと考えられているが、これらを媒介とすることは非常に困難を伴うこと。

ニ 言語や貨幣は何かを伝えるためにやむなく使われる媒介と思われるが、それは媒介なしに何かが伝わることを前提としている点で間違っていること。

ホ 言語や貨幣がなければコミュニケーションは不可能だが、これらを媒介としたコミュニケーションは必ずしも理想的なコミュニケーションではないということ。

問八 傍線部8「それは同時にシステム全体を極めてフレキシブルかつ頑強で創発的なものにする」とあるが、どういうことか。その説明として最も適切なものを、次のイーホの中から一つ選び、その解答欄にマークせよ。

イ 各人が独自の判断で「表現」や「売り」を行うことで、システム全体が活性化すること。

ロ 言語や貨幣がストックされることで、出し惜しみや売り惜しみが可能になり、それが社会をシステムとして鍛えること。

ハ 言語や貨幣によるコミュニケーションがそれぞれ自律的なものとなることで、言語も貨幣も独立した時間と空間を確保できること。

ニ 貨幣交換における「売り」と「買い」の分離が、商品をストックすることを可能にして社会的な備蓄が行われて、社会が強化されること。

ホ 言語における「表現」と「理解」、貨幣における「売り」と「買い」が分離されることで、コミュニケーションや経済行為の質や自由度が高まること。

問九 傍線部9「すなわち、グローバルゼーション」で始まるこの段落の論旨はどのようなものか。その説明として最も適切なものを、次のイ～ホの中から一つ選び、その解答欄にマークせよ。

イ グローバリゼーションによる市場においては、相手の国の文化や伝統と関わりなく商品の売買ができるようになったので、互いに人間としての理解が不要になってしまったこと。

ロ グローバリゼーションによる市場においては、多くの国や地域と取引がリアルタイムでできるようになったので、相手に合わせてその反応を待っていらなくなってしまうこと。

ハ グローバリゼーションによる市場においては、ネット上での取引が常態化しているために、コミュニケーションもデジタル化してしまって、他者の背景にある微妙な感情が理解できなくなってしまうこと。

ニ グローバリゼーションによる市場では、必ずしも理解できる商品だけが流通しているわけではないので、その商品に対する情報を瞬時に手に入れなければならない、相手への配慮が持てなくなったこと。

ホ グローバリゼーションによる市場が互いに相手の見えない人間の感性を超えた売買を日常化させたために、言語的コミュニケーションにおいても目の前の相手を一人の人間として理解しなくなってしまったこと。

問十 傍線部10「貨幣的コミュニケーションのあり方をこそ変えなければならないということにもなろう」とあるが、筆者はその解決策として何を想定していると推測されるか。最も適切なものを、次のイ～ホの中から一つ選び、その解答欄にマークせよ。

イ キャッシュレス ロ 国際通貨基金 ハ 大規模商店 ニ 地域通貨 ホ ユーロ

(二) 次の文章は『栄華物語』の一節で、中納言藤原長家が妻を喪い嘆き悲しむ場面である。読んで、あとの問いに答えよ。

やうやう日ごろになるままに、中納言殿、あはれに恋しく悲しとも世の常におぼされて、文集の文をおほしあはせらる。李夫人の有様もかやうにこそはとおぼされて、「灯火を背け、壁を隔てて語らふことを得ず。いづこそしばらく来りて、早くあひ見ることを目せん。心をいたすこと、一人武皇帝のみにあらず、古より今に至るまで、また多くかくのごとし」と、おぼしつづけて、「侍従大納言の姫君の御折、いみじと思ひしかど、それはいと若くて、なかなかもののおぼえて、はかなきことにも慰みき。これはおほかたあべうもおぼされずや。よしなく文うち書き、内裏わたりの宿直の折など、はかなきことありしを、いと心よからぬ御氣色にて、「まろが死なんをい、いかにうれしとおぼされん」などのたまひしかば、「あなゆゆし。かかることなたまひそ。さらんをりは、まろも世にあらばこそあらめ、法師になりなんものを。すべてさらに今より後、かく侍らじ」など聞こえしものを。世にあらば人のあたりにも寄りなんや。おはせぬかげにも、おろかなるさまにや見えたてまつらん。なほ聞こえしやうに、法師にやなりなまし」など、世の中をあはれに心細くおぼしつづ、夜、つゆ御殿籠らず嘆き明したまふ。

(中略) この部分には長家の妻の亡骸を親族や近親者達で法住寺に移したことが記されている

さてこの御忌のほどは、誰もそこにおはしますべきなりけり。山の方をながめやらせたまふにつけても、わざとならずいろいろにすこしうつろひたり。鹿の鳴く音に御目もさめて、今すこし心細さまさりたまふ。宮々よりもおほし慰むべき御消息たびたびあれど、ただ今はただ夢を見たらんやうにのみおぼされて、過ぐしたまふ。月のいみじう明きにも、おぼし残させたまふことなし。内裏わたりの女房も、さまざま御消息聞こゆれども、よろしきほどは、「今みづから」とばかり書かせたまふ。進内侍と聞こゆる人聞こえたり、

契りけん千代は涙の水底に枕ばかりや浮きて見ゆらん

中納言殿の御返し、

起き臥しの契りは絶えてつきせねば枕を浮くる涙なりけり

また東宮の若宮の御乳母の小弁、

悲しさをかつは思ひも慰めよ誰もつひにはとまるべき世か

御返し、

慰むる方しなければ世の中の常なきことも知られざりけり

かやうにおぼしのたまはせても、いでや、もののおぼゆるにこそあめれ、まして月ごろ、年ごろにもならば、思ひ忘るるやうもやあらんと、われながら心憂くおぼさる。何ごとにもいかでかくとめやすくおはせしものを。顔かたちよりはじめ、心さま、手うち書き、絵などの心に入り、さいつごろまで御心に入りて、うつ伏しうつ伏して書きたまひしものを、この夏の絵を、枇杷殿にもてまゐりたりしかば、いみじう興じめでさせたまひて、納めたまひし、よくぞもてまゐりにけるなど、おぼし残すことなきままに、よろづにつけて恋しくのみ思ひ出できこえさせたまふ。年ごろ書きつめさせたまひける絵物語など、みな焼けにし後、去年今年のほどにしつめさせたまへるもいみじう多かりし、里に出でなば、とり出でつつ見て慰めむとおぼされけり。

月のいみじう明きに、ふるさとおほし出でて、

4 もろともにながめし人もわれもなき宿には月やひとりすむらん

(注) 侍従大納言……藤原行成。 宮々……長家の姉たち。 太皇太后彰子、皇太后妍子、中宮威子。

進内侍……女房の名前。 小弁……女房の名前。 枇杷殿……皇太后妍子。

書きつめ……「書き集め」と同じ。 しつめ……「集め」と同じ。

問十一 傍線部「はかなきこと」が具体的に指すものとして最も適切なものを、次のイ～ホの中から一つ選び、その解答欄にマークせよ。

- イ 急に亡くなること。
- ロ 女性とたわむれること。
- ハ 失意のあまり出家すること。
- ニ つまらない手紙を書くこと。
- ホ 漢詩の一節を思い出すこと。

問十二 二重傍線部X「な」と文法的に同じものを傍線部イ～ホから選び、その解答欄にマークせよ。なお答えは一つとは限らない。

問十三 傍線部2「まろも世にあらばこそあらめ」の内容として最も適切なものを、次のイ～ホの中から一つ選び、その解答欄にマークせよ。

- イ 私も死んでしまおうが、仮に私が生きながらえたとしても。
- ロ 私もいずれ死んでしまふ定めにあるが、私の後生を申うために。
- ハ 私も俗世を生き抜いたとして、あなたも生きつづけるとすれば。
- ニ あなたも亡くなってしまうならば、あなたの後生を申うために。
- ホ あなたも出家していたので、私も早く出家の身となろうとして。

問十四 傍線部a、bはそれぞれ誰に対する敬意を示すか。次のイ～ホの中から一つずつ選び、それぞれの解答欄にマークせよ。なお同じものをくりかえし使ってもよい。

- イ 長家（中納言殿）
- ロ 長家の妻
- ハ 女房（進内侍と小弁）
- ニ 皇太后妍子（枇杷殿）
- ホ 仏

問十五 傍線部3「よろしきほどは、今みづから」とばかり書かせたまふ」の内容として最も適切なものを、次のイ～ホの中から一つ選び、その解答欄にマークせよ。

- イ 教養ある優れた女房の手紙に対しては、代筆ではなく自分で直接返事を書いたということ。
- ロ 程々の身分である女房の手紙に対しては、自分で直接会って返歌をする書き送ったということ。
- ハ 身分の高い女房の手紙に対しては、本格的な返事をする前にすぐに会いに行くと返事をしたということ。
- ニ 重んじる必要がない女房の手紙に対しては、そのうち会いに行くと書いて返歌をしなかったということ。
- ホ 重んじるべき女房の手紙に対しては、先ずこれから自分で歌を詠むと書いてから、その後返歌をしたということ。

問十六 傍線部4「もろともにながめし人もわれもなき宿には月やひとりすむらん」の掛詞の説明として最も適切なものを、次のイ～ホの中から一つ選び、その解答欄にマークせよ。

- イ 初句の「もろとも」に「友」の意が掛けられている。
- ロ 二句の「ながめ」に「眺め」と「長雨」の意が掛けられている。
- ハ 三句の「なき」に「亡き」と「泣き」の意が掛けられている。
- ニ 五句の「ひとり」に「人」の意が掛けられている。
- ホ 五句の「すむ」に「住む」と「澄む」の意が掛けられている。

問十七 本文の内容に合うものを、次のイ～ホの中から一つ選び、その解答欄にマークせよ。

- イ 歌の名人として知られた長家は、妻を喪った後も女房達と風雅な和歌のやりとりをつづけた。
ロ 長家は以前にも妻に先立たれたが、その時は若くもあり、悲しみを紛らわせることができた。
ハ 長家の妻は、生来の気の強さと芸術家らしい思い込みによって、夫を困惑させる時もあった。
ニ 絵を収集していた皇太后妍子は、長家の妻に名品を惜しみなく与える心の広さを持っていた。
ホ 出家願望が強い長家の妻は、日頃夫と共に出家しようと話していたが、出家を果たせず亡くなった。

問十八 次の漢文は、問題文中に言及される「文集の文」の典拠となる文章である。この漢文を読んで、あとの(1)

(3)の問いに答えよ(設問の都合上、返り点・送り仮名を省いた箇所がある)。

及^{シテ}李夫人卒^{シテ}上^ニ以^テ后礼葬^ス焉^ニ。上思^フ念^ス李夫人不^レ已^ニ。方
士少翁言^フ能^ク致^ス其神^ヲ。乃夜^ニ張^リ灯燭^ヲ設^{ケテ}帷帳^ヲ陳^セ酒肉^ヲ而^{シテ}
令^シ上居^ニ他帳遥望^シ見^セ好女^ノ如^キ李夫人之貌^ヲ還幄坐^{シテ}而^{シテ}
步^ク又不得^ニ就^ス視^ス。上愈益^ニ相思悲感^シ令^ム楽府諸音家^ヲ絃^{シテ}
歌^セ之^ヲ。上又自^ミ為^ス作^ス賦^ヲ以^テ傷^ム悼^ス夫人^ヲ。

(班固「漢書」より)

(注) 上……武帝をさす。后礼……后(きさき)としての扱いでとり行う儀礼。

方士……宮廷に仕えている呪術師。少翁……方士の名。

還幄坐而歩……「くりかえし帳の中で座つたり立つて歩いたりする」の意。

楽府……宮中に設けられた音楽をつかさどる役所。

(1) 傍線部1「焉」に最も近い意味をもつ文字はどれか。次のイ～ホの中から一つ選び、その解答欄にマークせよ。

イ之ロ悪ハ終ニ乎ホ故

(2) 傍線部2「不得就視」の解釈として最も適切なものを、次のイ～ホの中から一つ選び、その解答欄にマークせよ。

- イ 長くは見張れなかった。
ロ たちまち消えてしまった。
ハ 見ないわけにはいかなかった。
ニ 近くで見ることができなかった。
ホ 正式に面会することができなかった。

(3) 漢文の内容に合うものを、次のイ～ホの中から一つ選び、その解答欄にマークせよ。

- イ 李夫人は方士を介して武帝との再会を画策したが、そのまゝに亡くなってしまった。
ロ 武帝は方士の術を頼って李夫人の霊に会おうと試みたが、不本意な結果に終わった。
ハ 武帝は李夫人と会うことはできたが、灯火や壁に隔てられて言葉を交わせなかった。
ニ 方士は李夫人のまわりを食物やとりで囲み、武帝と話ができないように仕組んだ。
ホ 李夫人は方士を介して武帝の靈魂と面会したが、悲痛な心のうちは明かせなかった。

〔以下余白〕

